

日墨友好の絆をつないで —メキシコウィーク報告

駐日メキシコ大使館の協力で、6月26日(月)から7月1日(土)までメキシコウィークが開催された。ナショナルウィークの4回目。コロナ禍で止まっていた時間が動き出し、魅惑と躍動の空間が生まれた。



メキシコ国旗の展示 (MMCエントランス)



メキシコウィークのポスター展示

みなとみらいキャンパス(MMC)のエントランスを入ると、国旗が目飛び込んできた。アステカの紋章が描かれた三色旗。フリースペースでは、写真家サンティアゴ・アラウの自然コレクション『空から旅するメキシコ』が並ぶ。ドローンの目で豊かな大地を一望した作品群。火山、密林、海辺、都市など総延長3万キロ以上の風景、日本の5倍の国土の多様性が表現されている。その隣にはメキシコ金星観測隊の写真パネル。1874年、横浜の地にやってきた科学者一行(コバルピアス団長)は、野毛坂と山



写真家アラウ「空から旅するメキシコ」展示

星を観測して日本天文遺産につながる貢献を行った。その『ディアス・コバルピアス日本旅行記』は国交樹立のきっかけをなした(神大図書館には貴重なスペイン語版が2種類所蔵される)。百年後、紅



メキシコ金星観測隊記念碑 (紅葉坂)

手で、太陽を横切る金星を観測して日本天文遺産につながる貢献を行った。その『ディアス・コバルピアス日本旅行記』は国交樹立のきっかけをなした(神大図書館には貴重なスペイン語版が2種類所蔵される)。百年後、紅

続いて「メキシコと日本 知られざる400年の友好の歴史」と題し、エマヌエル・トリニダー参事官が講演を行った。「日本と同じく



大使のビデオメッセージ

葉坂の県立青少年センター前に記念碑が建てられた。こうして贅沢な1週間が始まった。月曜の午前、初日を飾ったのはメキシコ大使館による講演会。メルバ・プリーア大使のビデオメッセージが流れた。日本にとって初の平等条約がむずばれ、榎本植民を受け入れてくれた友好の歴史、神大との関係も強調された。その後、カラフルな民族衣装のマリアッチ・グループが登場。リズムカ

ルな演奏と歌が響き渡ると、会場の空気が賑やかになった。



参事官の講演

外国語学部 スペイン語学科 新木秀和

らいの人口を持つメキシコ合衆国は、世界で一番スペイン語話者が多い国です」。1609年、千葉御宿沖で座礁したスペイン船の出来事が交流の始まりとなる。「日本との交流は400年に及びます。かつてガレオン船がマニラとアカプルコをつないでいました」。熱心に耳を傾ける学生たち。幕末から明治への転機、そして現代へと話は進んでいく。質疑応答では、地震大国である両国の国際協力（1985年のメキシコ地震や2011年の東日本大震災などで互いに救助隊を派遣）に話が及び、日墨関係の流れについて理解を深めることができた。



マリアッチ・グループ

昼時間にはナレツジコアで、先ほどのマリアッチ・グループによるライブパフォーマンスが行われ、シエリト・リンドなどの軽快なリズムが観客を興奮の渦に巻き込んだ。

火曜は10時から言語交流会。その経緯を記せば、3月初め、日本メキシコ学院の副理事長を務める元本学社会人院生（日墨協会副会長、日系企業社長）からの電子メール（メキシコからの手紙）が発端だった。本学との国際交流の可能性について相談があり、国際課につないだ。縁あって高校生の日本研修がウィーク期間に重なり、太平洋を越える高大連携が実現した。

火曜の夜はドキュメンタリー作品『TAKEDA』

竹田鎮三郎
映画『TAKEDA』より

（ヤアシブ・バスケス・コルメナス監督、2017年）の上映。1963年よりメキシコ在住の画家、竹田鎮三郎（1935年、瀬戸市生まれ）の視点を通じた人間の普遍性がテーマだ。色彩豊かでノスタルジックな世界。メキシコ文化に惹かれた日本の芸術家たちの足跡は交流史の一コマだ。同郷の北川民次から勧められてメキシコに向かった竹田氏は、岡本太郎の大作『明日の神話』（1968年）を、助手として支えた人物でもある（その壁画は渋谷駅井の頭線連絡通路で人々と対面する）。

水曜から金曜の昼時間には留学関連のイベントが行われ、留学支援の学生団体メンバーが司会などで活躍



留学説明会（メキシコ人留学生）

した。本学協定校のテックミレニオ大学からの交換留学生が紹介を担い、同大学と、同じく本学協定校のベラクルス大学の各担当者から大学の紹介があった。

その夜行われた岩崎先生の講演「聖なる力に満たされた宇宙 古代アステカ・マヤから現代メキシコへ」は、古代文明への誘いとなった。メソアメリカの人々の宇宙観、パレンケなどのマヤ遺跡、古代都市テオティ



岩崎先生の講演

ワカン、アステカ王国の都テノチティトラン。熱い語りで古代メキシコ文明の深遠さと魅力がよみがえった。特別展『古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン』（東京国立博物館で6月から開催）に飛んで行きたくなった。35の世界遺産を有するメキシコでは、古代先住民都市の遺構は人気の的になっている。

木曜午後はメキシコ観光・貿易分野の企業講演会。多数の日本企業が進出し、観光立国でもあるこの国は訪問者を引きつける。日本との経済文化交流も活発だ。観光のエクスパートから観光の現状と可能性を教えられた。死者の日やルチャブレなどがツアーに組み込まれていることも興味深い。メキシコとの貿易を担う専門家の話では、顧客のニーズに応じて様々な商品の開発に挑まれていることがとくに印象深かった。

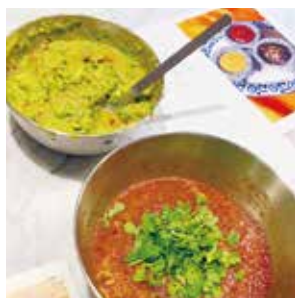
金曜の留学体験談については本誌の記事を楽しんでもらいたい。



留学体験談（記念写真）



メキシコ料理教室



その夜、最終日の締めくくりは大使館専任シェフによる料理教室だった。ランドマークプラザ地下1階で、本場のサルサづくりなどを楽しんだ参加者たち。和食よりも先に無形文化遺産に登録されたメキシコ料理は、豊富な食材と多彩な味付けが特徴である。



ハラペーニョバーガー (MMC 21階学食)



タコス

チリコンカン (MMC 1階レストラン)



MMC 7階学食のメニュー

イベント期間を通じて学食では各種メニューが提供され、多くの学生・教職員や訪問者がメキシコの味を堪能した。横浜キャンパス10号館のメニューをあげておく。月曜・チキンファヒータ定食、火曜・ケサデーヤサルサソース(320円)、水曜・トルテイヤチップスワカモレー(320円)、木曜・メキシカンステーキ定食(1099円)と多彩で、どんぶり物として金曜にブリトーサーモンアボ&とんかつ(440円)も出された。学食スタッフによれば、ステーキ定

多様性と奥深さに満ちた隣国メキシコ。その魅力を十分に堪能できる一週間だった。
(企画から実施までのすべてを担い貴重な写真を提供してくださった国際課はじめ本学関係部署の皆様へ感謝します)

図書の展示にもふれた。横浜図書館では2階カウンター前に、みなとみらい図書館ではグローバルラウンジに関連図書の展示コーナーが設けられた。たとえば前者では建築家ルイス・バラガンの図録やフリーダ・カーロの美術本が置かれ、キャンパスごとの選書がなされていた。MMCでは連日イベントでにぎわう建物にカラフルな書籍が溶け合っていた。



横浜図書館の図書展示

食の人気が高かったそうだ。またMMCでは、21階でハラペーニョソースのハンバーガー(650円)が、7階で月曜に牛肉のアランブレ(650円)、火曜に白身魚のベラクルス風(650円)を食べることができた。1階にはチリコンカン(chile con carne)がお目見えし、エントランス向かいのカフェでは6月から月替わりでノンアルコールのモヒート(630円)がトロピカルな涼風を届けてくれた。